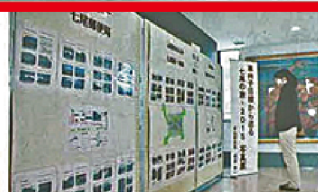


新聞記事 (2)

恵寿総合病院で展示

【2016.8.8(月)北陸中日新聞・能登面】



車いす利用者の視点から撮影した写真が並ぶ会場。七尾市富岡町で

車いす目線から巡る七尾の旅・2015写真展

七尾で写真展

車いす目線で紹介

七尾市富岡町の恵寿総合病院で、障害者施設「青山彩光苑」(同市青山町)に入所する桶屋善一さん(62)の写真展「車いす目線から巡る七尾の旅・2015写真展」が開かれている。十二日まで。

桶屋さんは、生後間もなく脳性まひにかかり、手足と言語に障害がある。二〇〇八年から電動車いすにカメラを取り付け、七尾市内のバリアフリー状況を撮影している。

今回の写真展は同病院と青山彩光苑の共催。七尾駅から七尾郵便局の歩道や同市一本杉通り商店街の店舗、能登食祭市場での段差の有無などを撮影した百二十八枚が並ぶ。同病院の担当者らは「視点を交えて見た街の様子を多くの人に知ってほしい」と話した。

(松村真一郎)

国際医療福祉専門学校七尾校で展示

【2016年10月24日(月)北國新聞朝刊】



展示を眺める桶屋さん手前
七尾市小島町

車いす目線の旅写真展を展示

七尾の桶屋さん

「車いす目線から巡る旅・写真展」(本社後援)は23日、七尾市藤橋町の国際医療福祉専門学校七尾校で開かれ、同市青山町の障害者支援施設「青山彩光苑」に入所している桶屋善一さん(62)が観光施設のバリアフリー状況を調べた写真が

日は能登町や輪島市などを取材し、最終日の25日は和倉から七尾市街地を走行する。記事は12月に発行される号に掲載される。

並んだ。

脳性まひで手足などに障害があり、電動車いすで生活している桶屋さんが、能登食祭市場や北陸新幹線「かがやき」を利用した際の写真とコメントが展示された。

来館者60万人達成
かほく市中央図書館

かほく市中央図書館の来館者数が23日、60万人を突破した。節目の来館者となった林竜輝さん(16)は同市宇気川に、南匡志館長から同館マスコットキャラクター「UNT(うんとくん)」

記念品を受け取る林さん(右)
かほく市中央図書館

毎年、秋に行われる国際医療福祉専門学校七尾校文化祭「小丸山祭」に「車いす目線から巡る七尾の旅」を展示させていただいております。

今年度は「北陸新幹線で東京旅行」「能登食祭市場」の様子を展示させていただきました。当日は多くの方々にご覧いただきました。